

Renal Interstitial Fibrosis in 0-Hour Biopsy as a Predictor of Post-Transplant Anemia

土本, 晃裕

<https://hdl.handle.net/2324/1441099>

出版情報：九州大学, 2013, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名： 土本 晃裕

論文題名：

Renal Interstitial Fibrosis in 0-Hour Biopsy as a Predictor of Post-Transplant Anemia

(ドナー腎の間質線維化が移植後のレシピエント貧血発症に与える影響)

区分分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

我々は、本論文において、移植腎摘出の際にみられる間質線維化は、移植後1年後の貧血の独立した危険因子であることを明らかにした。腎移植患者はほとんどの症例で腎機能は速やかに安定するにも関わらず、貧血は遷延する。慢性腎臓病と同じく、腎移植患者の貧血は、移植腎機能や生存率を悪化と関連している。その原因は多岐にわたるが、ドナーの要因について検討した報告はない。移植の際に摘出された腎臓から採取される0時間生検の組織はドナーの持ち込み病変を反映する。今回腎移植患者についての後向きにデータ収集を行い、間質線維化と移植後貧血の関連性を多変量解析、層別解析を用いて示した。ドナー腎で間質線維化を有した場合、移植後貧血のリスクはオッズ比で1.8倍に相当し、腎機能正常の群においても同様の傾向を認めた。持ち込みの組織病変を認める症例では貧血が遷延しやすく、そのような症例では、早期の赤血球刺激因子製剤の使用を検討する必要があると考えられる。